

公益財団法人そらぷちキッズキャンプ 2020年度 夏季 活動実績報告(御礼)

世界全体、日本国内、そして北海道内の新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大状況を注視し、感染拡大防止を第一に考え活動しました。

『更に外出し難くなった 闘病中の子どもたちや家族に“ちょっとした楽しみ”を贈りました』

●ウォールステッカーギフト

北海道に棲む動物を描いた、貼ってはがせるウォールステッカーをオリジナルで 500 セット製作。全国各地の協力小児科医(病院)へ郵送し、病室の子どもたちと楽しんでもらいました。



●おうちキャンプ用品ギフト

「病院で貼られたステッカー」

これまで全国各地からキャンプに参加した、1000名を超える子どもたちや家族へ、コロナ禍見舞い(お便り)を送付。その中で、ギフトの募集を行い、希望者にはキャンプ用品をプレゼント。おうち時間が長くなったタイミングで、安全にキャンプの雰囲気を感じてもらいました。



「キャンプ気分を楽しむ家族」

『同居する 1 家族のみを対象とし、感染対策を徹底したキャンプを開催しました(計 13 回)』

●日帰りキャンプ 12 回 ～北海道在住～

緊急事態宣言解除後の 6 月から 10 月までのあいだ、キャンプ場の近隣にある滝川市こども発達支援センター、旭川子ども総合療育センターの利用者を中心に、1 家族限定の日帰りデイキャンプを週末 12 回開催し、12 家族 47 名の子どもたちや家族に、馬アクティビティや森のたんけん、芝生あそびなどを楽しんでもらいました。



「乗馬後の馬とのふれあい」

●宿泊キャンプ 1 回 ～成田赤十字病院より～

秋には、宿泊を伴うキャンプを1回開催しました。小児がんとたたかう子どもと家族(茨城県在住 1 家族 4 名)を、主治医同行のもと、2 泊 3 日で招待することができました。家族一緒に乗馬や森たんけん、アーチェリー、焚き火でおやつ作りなど、北海道の自然を満喫してもらいました。



「森たんけん(ツリーハウス)」

《今後の活動計画(2021 年 1 月以降、コロナ禍における活動方針)》

我慢すべきことは、充電期間と捉えじっと我慢し、変化すべきことは、新しくチャレンジする方針で、地球規模の COVID-19 感染症対策、ふんばっていきます。今後ともよろしくお願い致します。

公益財団法人そらぷちキッズキャンプ

2019年度 活動実績報告（御礼）

2019年度は、計9回のキャンプを実施(夏季7回、冬季2回)し、難病とたたかう子どもと家族を全国各地から北海道にある医療ケア付キャンプ場に無料で招待することができました。参加者たちは、大自然の中で仲間や家族と、かけがえのない時間を過ごし、明日を生きるエネルギーを持ち帰っていました。(年間参加者240名。うち病児73名) ご支援ありがとうございました。

「家族で参加したキャンプでの母親の感想」

○病気の本人もきょうだいも私たち夫婦も、家族一緒に楽しむことができました。こんなに楽しい日が来るとは、数年前には想像もしていなかったので、家族みんなで頑張ってきて良かったです。



「人工呼吸器をつけた子どもと家族の芝生遊び」



「雪の馬場で、家族一緒に馬そり体験」

2020年度 事業計画（概要）

2020年度は、世界全体、日本国内、そして北海道内の新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大状況を注視し、感染拡大防止を第一に考え行動します。(具体的には以下主な方針とします。)

○予定していた従来のキャンプは、原則中止し(夏季冬季9回のキャンプを予定)、全国各地の長期入院中の子どもたちへ、応援メッセージとともに病室で遊べる北海道動物のウォールステッカーを贈ります。(5種類の動物他)

「病室に届けるステッカー(一例)」



○試行予定だった、馬アクティビティ中心のワンファミリー・デイキャンプの準備作業は継続します。↑キャンプ場近隣居住者から参加家族(1日1家族)を募り、週末定期的に実施する計画。※感染拡大状況を注視しながら募集地域の範囲を都度設定し、状況が許せばキャンプを実施。

「過去の馬アクティビティ(乗馬)」



地球規模の COVID-19 感染症対策、ふんばっていきます。今後ともよろしくお願ひ致します。